

とりまとめ総括

・2025年の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との比較では、病床総数は215床過剰であり、全体的なスケールダウンが必要である。
 ・定量的基準導入後の各医療機能の充足状況をみると、高度急性期・慢性期で不足かほぼ過不足なしとなるため、合意とする。
 ・合意としない急性期・地域急性期・回復期病床については、毎年度、協議を繰り返していく中で合意を図っていくこととする。

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
尾鷲総合病院		199	56			255
紀南病院		140	100			240
長島回生病院		27		47		74
第一病院				258	24	282
大石産婦人科医院		7				7
医療法人玉鷲会 玉置眼科		8				8
計	0	381	156	305	24	866

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
急性期医療や救急医療の中心的な役割を担うとともに、回復期機能についても一定の役割を担う。また、地域包括ケアシステムの構築に関しても、地域の関係機関と連携し、基幹病院としての役割をはたすとともに、へき地医療拠点病院や災害拠点病院としての役割も担う。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☑災害		(146)	(109)			255	
急性期医療・救急医療から回復期機能までの中心的な役割を担うとともに、地域包括ケアシステムの構築に関しても、地域の関係機関と連携し、基幹病院としての役割をはたす。また、へき地医療拠点病院や災害拠点病院としての役割をはたす。 ☑救急 ☐小児 ☑周産期 ☑災害		(140)	(60)	(40)		240	
近隣20km圏内に一般病床を保有する病院は他にないため、引き続き急性期機能を担うとともに、地域への流入患者の受入先として慢性期医療の役割を果たす。			(27)		47	74	
在宅・介護施設での療養が困難又は急性期治療を終えた患者の受入先として、慢性期機能を担う。					192	192	90
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			(7)			7	
眼科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			(8)			8	
計	0	286	211	40	239	776	90

(計)					
2025年の病床数の必要量	29	122	174	236	561
2025年の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	-29	164	77	3	215
協議を継続することとした病床数	0	286	211	40	537

参考：平成30年度

	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
2025年に向けた医療機能ごとの病床数	5	244	192	40	295	776	90
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	-24	122	58		59	215	